

政協礼堂における講演

## 新世紀をめざす日中関係

深さと広がりを求めて

(昭和五十四年十二月七日 北京)

ウランフ中国人民政治協商会議全国委員会副主席閣下

ご在席の皆さま

本日、ここ中国人民政治協商会議礼堂において、日本と中国との関係について、所信の一端を申し述べ、機会が与えられましたことは、私の非常な喜びとするところであります。このような榮譽ある機会を準備して下さった中国政府、中国人民政治協商会議に対して、深甚なる感謝の意を表明いたしたいと思いません。

新中国成立以来、中国人民政治協商会議が中国国内の幅広い勢力を結集し、多年にわたり重要な役割を果たしてこられたことは、われわれのよく承知するところであります。私は、これまでの皆さまのご活動に対し、あらためて敬意を表するものであります。

七年前の一九七二年秋、私は、外務大臣として田中元総理大臣とともに、日中両国の国交正常化という歴史的大事業のため北京を訪問いたしました。われわれの胸中は、大きな期待とそれに匹敵する大きな不

安に満たされていきました。しかし、その不安も、故周恩来元総理閣下の「小異を残して大同を求める」という言葉によって表現された中国の指導者、並びに中国国民の大きな度量によって解消され、日中国交正常化の大業は成就いたしました。

往時をふり返るとき、泰然たる風格の哲人、故毛沢東主席閣下のたたずまい、疲れを知らない超人的な政治家であり、中国国民の敬愛的であった故周恩来元総理閣下の姿が、ありありと目に浮かぶのであります。ここにお二人の偉大な指導者の偉功を偲び、そのご冥福をお祈りいたします。

その後、日中両国の友好関係は、両国の指導者、国民のたゆまざる努力と変わることのない情熱とに支えられて、着実に発展してまいりました。なかでも、昨年、鄧小平副総理閣下のご来日を得て、両国が平和友好条約を締結し、改めて永きにわたる平和友好関係を誓い合ったことは、未だにわれわれの記憶に新しいところであります。

私は、今回の中国訪問にあたり、いま中国は、二十一世紀へのかけ橋ともなるべき国の近代化という壮挙を、全国民こそって推進中であることを伝え知らされておりました。私は、多大な期待と関心を抱きながら、心の隅に一抹の不安を禁じえませんでした。勤勉で英知に富んだ十億の国民の参加によるこの大事業が立派に達成されるであろうことを信じつつ、なお内外の情勢の厳しさを見るにつけ、その将来の困難を思わざるを得なかったからであります。

今次滞在中、私は、華国鋒総理閣下、鄧小平副総理閣下をはじめとする中国の指導者各位と、今後の日中両国関係や中国近代化の諸問題について、友好的かつ率直に話し合いました。私は、これらの会談を通

じ、中国の指導者の方々が、安易な楽観論に走ることをいましめながら、将来に対する確たる展望をふまえて、ゆるぎない信念をもって総力を結集されていることを知りました。

過般の建国三十周年の記念日において、葉劍英委員長閣下が、「山重水複路無きかと疑う。柳暗花明また一村」という句を引いて艱難の克服と前途の光明を表現されたことを、私は、改めて強い感動をもって思い起こすのであります。

また、目のあたりに見た北京の街は、私が前回訪問した五年前に較べ、格段に明るく、人々は、活力に溢れ、前途に対する自信に満ちていました。僅か二日の印象であります。ここにおいて私のかすかな不安は一掃され、成功への確信にかかりました。

私は、善き隣邦の一人として、中国の近代化政策が実り多き成果をあげて心を心から願うものであります。私は、このたびの会談を通じて、はじめて華国総理閣下にお目にかかり、華総理閣下のあたたかい包容力と鋭い識見に強い印象を受けました。さらにまた華総理閣下は、国際的な問題についても深い識見を示されました。

われわれは、日中両国が両国間の共同声明と平和友好条約という二つの文書に盛られた原則と精神に則り、善き隣邦として、将来永きにわたって平和的かつ友好的関係を維持発展させていくことを誓いあいました。われわれは、また、一九八〇年代のみならず、二十一世紀へ向けて、両国間の良好にして安定した関係をあらゆる分野において発展させ、さらに深さと広がり求めていかねばならないと話しあいました。また、このような日中関係をアジア、ひいては世界の平和と安定に貢献するものとしなければならぬこと

についても確認しあつたのであります。

日中両国民がそれぞれ光栄ある二十一世紀の基礎づくりに取り組むべき八〇年代は、世界のいかなる国にとつても、決して樂觀を許す時代ではありません。あらゆる国がさまざまな深刻な問題をかかえており、それらを解決しなければ、八〇年代を越え、さらに九〇年代を通じて、新たな世紀を迎えることができないのであります。わが国もその例には洩れません。日本の国民はいまあげて、これらの問題の克服のために努力しております。

私は、貴国の近代化も、この新たな世紀へ達するための、貴国民の戦いであると思います。それは、多くの困難に満ちたものとなるでしょう。十億の人々を適所に配して、その活力を引き出す道が容易ではないことは、誰の目にも明らかであります。中国の方々が、これを新たな長征としてとらえておられることも、むべなるものがあります。

しかしながら、今日、世界の各国が当面している問題は、ただ一国をもつてしては解決のできるものではなくなりました。今日の国際社会は、深く相互に依存しなければ存立し得ない時代に入っているのであります。私は、すべての国がお互いに助け合い、進んで責任を分かちあうことによつてこそ、世界の平和と進歩は確保されると信じ、これをわが国外交の基本的な立場といたしております。

今回、中国首脳各位との会談を通じ、中国が国際場裡においても、国際社会の平和と安定のため、一層積極的な役割を果たそうとする用意を示されつつあることをうかがいました。世界の平和と安定のためにまことに同慶に耐えぬものがあります。世界の国々が貴国の近代化政策を祝福すべきものとして受けとめ

ているのは、この政策に国際協調の心棒が通っており、より豊かな中国の出現がよりよき世界につながるとの期待が持てるからにほかなりません。わが国が中国の近代化に協力するとの方針を強く打ち出した所以も、わが国独自の考え方に加えて、このような世界の期待に裏打ちされているからであります。

この立場に立つて、私は、貴国の努力に対して、わが国が積極的な協力を惜しむものではないことをここに皆さまにお約束いたします。

このたび、私は、わが国は貴国の要請に応え、貴国におけるいくつかの優先度の高い港湾、鉄道、水力発電等の基本建設プロジェクトに対し、政府ベースの借金を供与することを表明いたしました。これは、日中間の新たな側面での協力がその第一歩をふみ出したものとして、極めて意義あることと考えます。

さらに、私は、貴国の指導者に対し、わが国が技術協力、あるいは留学生の受け入れをはじめとする文化学術面等において、貴国の人づくりに積極的に協力していく用意があることを表明いたしました。

私は、貴国の努力とこれらの協力があいまって、貴国の二十一世紀へ向けての建設のいしずえとなることを心から願っております。

なお、以上申し述べた点に関連して、私は、次のことを明確にしておかねばなりません。

すなわち、その第一は、わが国は、いずれの国に対しても、軍事面での協力は行わないということであり、中国に対しても例外ではありません。このことは、日本が過般の戦争に対する厳しい反省の上に立つて、平和に徹することを最大の国是としていることによるものであり、かかるわが国の考え方は、私からもこれまで貴国の指導者の方々に折にふれご説明し、ご理解を得ているところであります。平和に徹

し、いかなる国とも敵対関係をつくらず、また、軍事大国への道を拒否し、その持てる力を専ら国の内外における平和的建設と繁栄に向ける、これは国民の一致して支持しているわが国の基本的方針であります。

第二は、近隣アジア諸国との関係の問題であります。この際、私は、わが国の中国に対する経済協力は、他の開発途上国、就中わが国との間に伝統的な友好関係にある ASEAN 諸国とわが国との協力関係を犠牲にする形においてなされるものでないことも、明確にしておきたいと思ひます。わが国の経済協力が拡大する過程において、中国への協力を進めるかたわら、これら諸国への協力も積極的に推進してゆくというわが国の方針に、いささかの変更もないのであります。

第三は、日中の関係は、排他的なものでないということであり、わが国の中国への経済協力は、日本の中国市場独占につながるものであるとの懸念が世界の一部に存在するということを、私は時折、耳にいたします。これは、まことにいわれのないことであると申さねばなりません。われわれは、中国自身がそのようなことを欲していないということを承知しております。日中関係は排他的なものであつてはならない、故周恩来元総理閣下もくり返しそう述べておられました。それぞれの国がその意志と能力に応じて中国との間に秩序ある関係を構築する。これは、中国の近代化という膨大な事業にかんがみれば最も望ましい姿であり、また、自然のなりゆきでもあるつかと思ひます。

由来、国と国との関係において最も大切なものは、国民の心と心の間には結ばれた強固な信頼であります。この信頼を裏打ちするものは、何よりも相互の国民の間の理解でなければなりません。

しかしながら、相手を知る努力は、決して容易な業ではないのであります。日中兩國は、一衣帯水にして二千年の歴史的、文化的つながりがありますが、このことのみをもつて、兩國民が十分な努力なくして理解しあえると安易に考えることは極めて危険なことではないかと思ひます。もの考え方、人間の生き方、物事に対する対処の仕方に、日本人と中国人の間には明らかに大きな違いがあるように見受けられます。われわれは、このことをしっかりと認識しておかなければなりません。体制も違い流儀も異なる日中兩國の間においては、なおさらこのような自覚的努力が厳しく求められるのであります。このことを忘れ、一時的なムードや情緒的な親近感、さらには、経済上の利害、打算の上上に日中関係の諸局面を築きあげようとするならば、それは所詮、砂上の樓閣に似た、はかなく、ぜい弱なものに終わるであらう。相互理解を深める上で人の往来を盛んにすることの重要性については、あらためて多言を要しません。私は、この点に関し、とくに兩國間の文化学術面における交流、あるいは留学生等の交流を大切にしたいと思ひます。今回の貴国訪問に際し、わが国は、貴国との間に文化交流協定を締結いたしました。私は、今後、この協定を基礎に双方の当事者が創意と工夫を發揮して、この面からも、兩國の友好関係が一層深まることを期待いたします。

さらに、兩國間で今後進められる技術協力も、この人的交流を促進させるものであります。

私は、貴国からのいろいろな分野における技術協力の要請に対して、今後、積極的に対応したいと考えております。これにより単に技術の移転が行われるという技術援助の側面のみでなく、数多くの分野で専門を同じくし、志を共にする者同士の間で人間交流が行われるという点に着目するからであります。

国民間の相互理解の増進をはかる一つの有力な手段が、言語であることは、いまさら申す迄もありません。わが国においては、古来、中国の漢籍が日本文化の一部を構成していることはご承知のとおりであります。また近年、現代中国語の学習熱が盛んになりつつあることは、極めて喜ばしいことであり、政府としてもこれを奨励してまいりたいと考えております。

一方、私は、中国においても日本語学習に対する熱意が高まりつつあることを喜んでおります。

私は、中国におけるこのような日本語学習の一層の振興のため、日本政府として、明年以降、具体的な計画をもって協力することをお約束したいと思ひます。私は、また中国における日本語の学習が、中国の人々の日本の社会および文化自体に対する幅広い関心の高まりにつながることを強く期待するものであります。

以上のような相互理解の努力を通じて、世界の平和とアジアの安定の創造に寄与する日中両国の関係をより深くより広く推し進めていくことこそ、今日、両国民に課せられた最も大きな課題であると信ずるものであります。

ウランフ副主席閣下

ご出席の皆さま

昔、唐代の高僧、鑑真和上は、わが国留学生のたつての希望をいれ、生命の危険をものかえりみず、万里の風濤を越えて、わが国に渡航され、仏教ばかりではなく、その弟子たちを通じ、建築、彫刻、文学、医学の面でもわが国の発展に大きく貢献されました。その徳を深く感じたわが国民は、和上の像を千二百年にわたって今日に伝え、これを国宝とし、その建立になる唐招提寺に安置しております。時代の激変を越



え、わが国の国民はいまなお、和上の徳を欽慕し、その祭りは絶えず、私も、その遺徳を敬慕してやまぬものであります。なお、この和上の像は、日中友好の見事な証として、近くこの北京の地において公開され、故国中国の皆さまに對面されることになっております。

二十一世紀に向かうこれからの時代にも、数々の荒波が襲うであらう。日中間においても、その荒波の中で、兩國が時に意思を異にし、利害關係を異にする局面も出てくるかもしれませんが。しかしながら、兩國間の二千年來の友好往來と文化交流の歴史をふりかえり、今日われわれが抱いている相互の信頼の心を失わずに努力し続けるならば、われわれの子孫は、永きにわたる兩國の平和友好關係を世界に誇ることになるであらう。私は、兩國の間の末永き平和友好關係を心から願ひ、また、兩國の交わりにおいてさらなる深さと広がり求めて皆さまとともに努力したいと思ひます。

こ静聽ありがとうございました。

(注) 北宋の詩人陸遊(一一二五—一二〇九年)からとつたもの

遊山西村

莫笑農家臘酒渾 笑う莫かれ農家の臘酒渾れるを

豐年留客足雞豚 豐年客を留むるに雞豚足れり

山重水複疑無路 山重水復路無きかと疑う

柳暗花明又一村 柳暗花明また一村

簫鼓追隨春社近 簫鼓追隨して春社近く

衣冠簡朴古風存 衣冠簡朴にして古風存す

從今若許閒乘月 今より若し閒に月に乘ずるを許さば

拄杖無時夜叩門 杖を拄ぎ時無く夜門を叩かん

(大意) 師走にしこんだ農家の酒がどぶろくだなどと笑いたもうな。去年は豊年で客をひきとめるのには十分な

難と豚がある。山が重なり川がいくえにも折れ路がもう行きどまりかと疑っていると、柳がほの暗くしける中に桃の花が明るく咲いたところ、また一つの村が開けてくる。笛や太鼓の音がかつ追いかつ随い春の社の近く、村人の服装は簡素で古えの良き風習をのこしている。こんごもし月の出たおりをみてゆるりとしてかけることが許されるなら、杖をつき何時と定めることなく夜半の門を叩きますよ。

葉剣英は、建国三十周年記念演説の中で、林彪、「四人組」らが文革以来十年間にわたってもたらした混乱と「四人組」追放後三年間の成果を詳述した上で右詩句を引用し、「確かに、この偉大な闘争は我々の党と人民をして新たな視界を開けせしめ、我々社会主義事業に新たな活力を獲得せしめた」と述べている。つまり、葉は進路が開ざされるかに見えた時、新たな美しい展望が開けたとの意味でこの詩句を用いている。

(参考) 外国首脳が政協礼堂で講演をするのは、はじめてのことであった。この講演は、中国全土にテレビを通じて放映され、日中関係の展望についての大平総理の考えが広く大衆にも浸透する機会となった。講演は聴衆の拍手で途切れることもしばしばあり、関係者にも深い感銘を与えた。